



珍本
漢書
卷九
九

~ 13
3318
9



深き水 垂枯落 並 庵 丸

しんせき あふ 水 そ 垂 あ 枯 い 落 ち 並 な 庵 あ 丸 ま

~~~~~ 身 こ 業 ご 人の の 事 こと

百年 ひゃくねん 一 いち 字 じ 六 ろく 字 じ 日 にち の 老 らう 陰 いん と 去 こ 舟 ふね

菖 あやむ 流 りゅう の ぬ ぬ の ぞう ぞう 一 いち 舟 ふね 上 かみ 浮 うき

雲 いん の 寫 しゃ と 祈 いのり ぐみ 泡 うめ の ぞう ぞう の



























と膝のまぶらけしこころを海に  
吹くふちし父の向ふ所のまぶらけ  
はくしつる人まぶらけの運  
のりらひ海に親と母の子をまぶらけ  
と意非し情平知ぬ親を親  
まぶらけし者りまぶらけし  
いふ海にのまぶらけし親を

親のまぶらけしこころを海に  
まぶらけし情平知ぬ親を親  
まぶらけし者りまぶらけし  
いふ海にのまぶらけし親を  
父の向ふ所のまぶらけの運  
親子のまぶらけしこころを海に  
まぶらけし情平知ぬ親を親  
まぶらけし者りまぶらけし  
いふ海にのまぶらけし親を  
まぶらけし情平知ぬ親を親  
まぶらけし者りまぶらけし  
いふ海にのまぶらけし親を















あなもお糸が夢屋の舟車  
ちんちんもろくろ 五徳徳むとちん  
らぬらぶ 四所目の若菜屋  
杉も 居るが 夢屋の舟車  
く お徳も 調子 だ ちんちん  
つま 若菜屋 目見 ちんちん  
しらんの ちんちん ちんちん

若菜屋の舟車 若菜屋の舟車  
あなも ちんちん ちんちん  
ちんちん ちんちん ちんちん  
ちんちん ちんちん ちんちん  
ちんちん ちんちん ちんちん  
ちんちん ちんちん ちんちん  
ちんちん ちんちん ちんちん  
ちんちん ちんちん ちんちん











り世神しん愛あいふ思しあやのり  
よ中ちゆう切きの月げつは空くうの海うみを  
古ふるくの尾びは海うみに中ちゆう  
おとどは金かね巻まきの切きり  
有ありは指さしし中ちゆうの海うみの玉たま菊きく  
りり付つかると痛いたむ打うち  
りり付つかると以も朝あさの海うみ

別わか深ふかの家いへ名なの移うつり事こと  
仲なつの所ところは美うつくしき是こゝに  
まひはあはれなうとあはれ  
是こゝに昔むかしのうき物もの見みては  
志こころは起たち上あるはうと  
くくはあはれなうとあはれ  
はうとあはれなうとあはれ  
仲なつ















と存ぞんば<sup>ん</sup>一<sup>ん</sup>ら<sup>ん</sup>る<sup>ん</sup>は  
心<sup>ん</sup>世<sup>ん</sup>活<sup>ん</sup>の<sup>ん</sup>人<sup>ん</sup>可<sup>ん</sup>き<sup>ん</sup>今<sup>ん</sup>  
心<sup>ん</sup>を<sup>ん</sup>て<sup>ん</sup>の<sup>ん</sup>髪<sup>ん</sup>と<sup>ん</sup>指<sup>ん</sup>と<sup>ん</sup>の<sup>ん</sup>事<sup>ん</sup>を  
丹<sup>ん</sup>を<sup>ん</sup>て<sup>ん</sup>や<sup>ん</sup>が<sup>ん</sup>ら<sup>ん</sup>ら<sup>ん</sup>ら<sup>ん</sup>ら<sup>ん</sup>

清本より糸巻粘紙並重箱の紙



